

パブリック・サービス研究分科会 夏期研究合宿 グループ討議録

2006年8月22日(火)、23日(水) 文化学園軽井沢山荘

グループ (1)	進行	・ 大川 龍太郎	(成城)	大学
	記録	・ 成田 暁	(大東文化)	大学
	発表	・ 辻本 幸彦	(立教)	大学
		・ 田辺 朋子	(国土館)	大学
		・ 藤原 美佳	(駒澤)	大学
		・ 清水 暁美	(相模女子)	大学
		・ 佐藤 庸子	(関東学院)	大学
		・ 今井 智子	(文化女子)	大学
	・ 吉野 恵子	(女子栄養)	大学	

テーマ: 図書館員・司書・アウトソーシング

大学図書館員に司書の資格は必要か。

司書資格保有者より司書資格は「実学志向」ではなく「机上の学問」であったとの意見があった。とりわけ、オンラインデータベースなど情報化が進む分野は実際の仕事で実践を重ねて学ぶことが多い。

実際、資格がなくてもある程度の仕事ができているのが現状である。また、資格取得のための大学からの補助や援助も特にない。加えて最近では資格を取得しても3年から5年で図書館以外の他部署へ異動する可能性がある中で、資格を取得してもムダになってしまうのではないかという疑問も出された。

一方で司書の知識は業務を円滑に進める上では必要であり、資格取得は「絶対条件」ではないが「必要条件のひとつ」ではないかという意見がでた。

結果、司書資格は持っている方が好ましいが絶対に必要なのではなく、むしろ次のような専門知識の方が必要である！

知識とは？ 語学力(英語、仏語、独語等):多言語の本の受入、教員とのやりとり。
学問領域を広げる

大学全体の把握、他部署業務経験:大学職員としての図書館員

大学職員として大学を知るために異動はマイナス要因ではないが、図書館で最低でも5年は経験しなければ図書館の仕事は把握できないであろう。

アウトソーシングできる業務とは？

では、専任職員がどうしてもやるべき仕事とは何だろうか。

対外的な業務(NII等)およびマニュアル化できない部分

他部署との連絡(大学の一部署である図書館)

業務上の最終判断、チェック(専任職員の責任の所在を明確にする)

運営方針(先見の目を持つこと、および経営者としての感覚をもつ)

選書、コレクション収集(図書館運営方針、ビジョン・特徴の形成)

予算管理

専門知識の必要性をアピールする力(大学における図書館の必要性をさらに学内に訴えていく)

これ以外の業務はアウトソーシングできるものが多々あるだろう。派遣職員、委託職員、パート、アルバイトなど様々な身分の人が混在して仕事をしている図書館では、やはり専任職員が専門知識を身につけ、フォロー、カバー、ケアできるようにやるべきことをやる。

司書資格のあるなしに関わらず、実践、研修等を通して専任職員教育をすること。

また他方で、図書館員のコミュニケーション能力不足(=学生に接する態度は重視する一方で、職場内同士のコミュニケーションは必ずしも重視されていない)に危機感をもつとの意見も多くあった。隣の人の仕事が分からない状態もあり、それではアウトソーシングやサービスにも影響するだろう。